

薬剤部 DI ニュース

坐薬について

坐薬を使用する場合には、どのような点に注意すればよいですか？

以下に挿入方法、挿入順序・挿入間隔についてまとめます。

《挿入方法》

※冷所保存の坐薬は、挿入後の冷刺激による排便の誘発を避けるため、使用 30 前には冷蔵庫から出すか、溶けない程度に手で温める。

※分割が必要な場合は、包装容器の上から清潔な

カッターナイフや包丁などを用いて切る。

①使用前にできるだけ排便を済ませておく。

石けんなどで十分に手を洗い、手を温める。

②包装容器から坐薬を取り出し、先の太いほう

(尖ったほう) から挿入する：肛門内に深く挿入する(乳幼児は 1~1.5 cm：指の第一関節が入る程度)。粘膜に適用するのでティッシュペーパーや手袋を用いることが望ましい。

③挿入後も手を洗う。挿入後、5~10 分ぐらいしてから、坐薬が

排出していないことを確認する：挿入したことが刺激となって排便と一緒に坐薬が出てしまうことがある。20~30 分間は運動などの激しい動きを避ける。

《挿入順序・挿入問題》

2 種類の坐薬を併用する場合には、主薬どうしの相互作用のほか、主薬と基剤との相互作用が起きる可能性がある。どの組み合わせでどの相互作用が起きるか明らかになっていないので、なるべく影響を少なくするために、2 種類の坐薬は続けて使用せず、30 分から 1 時間程度の時間を空けて使用することがすすめられている。

- 同一特性の基剤を併用：最初の坐薬を挿入後、排出がないことを確認してから、5~30 分後程度を目安に次の坐薬を挿入する。
- 緊急性のある坐薬との併用：同一特性の基剤の場合、抗けいれん薬や喘息治療薬、制吐薬等の緊急を要する坐薬は先に、解熱薬や抗生物質等の坐薬はその後に挿入する。
- 異なる基剤の坐薬を併用：水溶性基剤と油脂性基剤を併用する場合、水溶性基剤の坐薬を先に挿入し、血中濃度が上がるまでの間の 30 分以上間隔をあげ、油脂性基剤の坐薬を挿入する。ナウゼリン、ダイアップのように水溶性基剤で主薬が油脂性物質の場合、続けて油脂性基剤の坐薬を挿入すると、主薬の一部が油脂基剤に取り込まれ、初期の血中濃度の上昇が阻害されることが報告されている。
- 緩下剤の坐薬との併用：先に投与した主薬の吸収を考慮し、1 時間程度の間隔をあげ、常に最後に使用する。

＜姿勢と挿入方法＞

- ◆ おしりを突き出す中腰の姿勢が取れる場合(小児、成人など)：坐薬を肛門内に深く挿入したあと立ち上がる。肛門括約筋の収縮により、坐薬が自然に入っていく。挿入後は 2~3 分動かない。
- ◆ 中腰の姿勢が取れない場合(乳幼児や高齢者など)：乳児は、おむつを替える姿勢(仰向けに寝かせて両足を持ち上げる)で挿入し、10 秒ほど肛門を押さえる。年齢に応じて、横向きに寝かせ、足を曲げる姿勢や四つん這いでもよい。高齢者を介助するときには横向きで膝を曲げる姿勢をとらせる。いずれの場合も 2~3 分ほど時間を置いてから足をのばす。

基剤の種類	主な商品名
油脂性基剤(カカオ脂、ハードファットなど)：融点が体温より低いため、体温によって融解し主薬を放出する。	アンヒバ、アルピニー、ワコピタル、アンペック、新レシカルボン、ポルタレンサポ、ルピアール、テレミンソフト、セニラン
水溶性基剤(マクロゴールなど)：直腸内の体液によって融解し主薬を放出する。	ダイアップ ナウゼリン エスクレ

途中で排出された場合は？

基剤や主薬の体内動態を考慮したうえで対応する必要があります。原形をとどめた固形状の坐薬が出てきてしまった場合は、再挿入するか、新しい坐薬を挿入してよいと考えられています。

坐薬は通常 10～20 分で溶解します。溶けかけて形が崩れている場合は、既に薬の吸収が始まっていると考えられます。排出された坐薬がある程度形をとどめており、再挿入できる場合は再挿入しても問題ありませんが、再挿入が困難な場合は、過量投与を防ぐため、すぐに新しい坐薬の投与は行わず、しばらく様子を見て判断します。

<主な坐薬のTmax など>

商品名	Tmax	その他
ダイアアップ	約 1.5 時間	15～30 分(有効血中濃度到達時間)
アンヒバ	1.6 時間	30 分以内(作用発現時間)
インテバン	約 1～2 時間	
ボルタレンサポ	約 1 時間	
ナウゼリン	2 時間	
アンペック	1.3～1.5 時間	30 分(作用発現時間)

坐薬の使用期限は？

坐薬の使用期限は製造後 2～5 年ですが、患者さんに処方されるまでの年月を考えると、家庭で使用できる期限はそれよりもっと短くなります。また、乳児・小児の場合は、体重変化が激しく、時間の経過とともに適正な用量でなくなる可能性があります。従って、自宅に余っている坐薬は、処方された日から 1 年を目安に破棄するのがよいとされています。

参考：翔葉 TOPIC No.168

薬剤部 長命